

## 7月豪雨災害被災住宅のリフォーム

中土居美代子

7月の豪雨災害で床上浸水した戸建て住宅のリフォーム工事を担当したので報告します。

その住宅は呉市安浦町の7月6日の豪雨で河川が氾濫したエリアにありました。床上浸水で、2日間水が引かなくて、本人は船で救出されたそうです。私が連絡を受けたのは9日（月）で、はじめは「水害後のそうじを手伝ってもらえないか」との要望でお手伝いのつもりで現地に行ってみました。

川の水で浸水したのですからきれいな水が流れてきたと思ったらそんなことはありません。家に近づくための周囲の道路がどろだらけ。あたり一面もどろだらけ。やっと家にたどりついたらフローリングがどろだらけ。約80センチの床上浸水で、流れてきたどろがなんともたえようもないにおいを放つもので、「とにかく、これを掃き出そう！」と、頑張って頑張ってやっとフローリングの表面が見えてきました。床上のどろの一部を取り除くだけでこれですから、床下はもっと大変です。ベタ基礎に囲まれた空間がプール状になっていて、ここにも水とどろ！ 工務店の作業員さんが合羽を着て床下点検口から入ってどろを掻きだそうと。その間にバケツとチリトリで水をすくいだすのですが、こんなじゃまったくおいつかない。選択肢としては、床を取り除いてやりかえる方法しかなくて、実は、壁も断熱材が入っていて水とどろがしみ込んでいますから、1階の壁の内装の大半をやり替える必要があります。でも、それは費用のかかることで、二重ローンとならざるを得ず、ご本人の決断が必要になります。被災者支援の融資制度や支援金を調べて、リフォーム費用を積算して、再建可能な金額に落ち着いたということで、床と壁のリフォームが決定しました。

床のほとんど、壁の内装のほとんどを取り去って、基礎にたまっている水はポンプで吸い出して、どろは高圧洗浄と業務用の大型掃除機、その後は乾燥のために日数をとってから、消毒。ここより

先は、内装の復旧、システムキッチン、便器、ユニットバスの復旧をしました。設備のうち使えるものは再利用しています。

概略工程は、7月18日から床の撤去、8月6日から床工事、9月5日に完成。

床上浸水した住宅の復旧は、水と泥との闘いです。そして、カビとの闘いもありますから、早く対策する必要があります。この工事は、自分のお客さんの住宅が被害を受けていなかったことと、工務店さんの工事が周辺道路の被災で工事ができずに手待ちだったことにより実現したものです。

リフォームによりもとの生活に戻ることができたということではありますが、住宅に水が来るということの被害の大きさを実感しましたとともに、ご本人が受けられた心のダメージはそれ以上のものだったのだと想像します。

